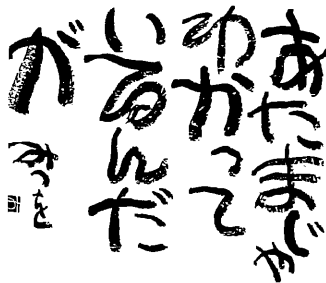


さくら第547号

令和 7年7月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7・Tel.51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



『やり続けることの大事さ』

塵(ちり)も積もれば山となるという例え話はよく知っていると思います。塵は些細なことや小さな事という意味であり、ゴミやホコリではありません。しかし、文字通りに塵をホコリと思えばふだん掃除をしない所にはいつの間にかホコリやゴミもたまり、薄汚れてくるので、そうならないように掃除を怠らないようにともいえますが、それとは意味が違います。

この例え話はインドの仏教の言葉が元であり、わずかな怒りや欲望でも積み重なると魂が救われにくくなるという意味合いがあります。

小さな事の積み重ねが大事であるという意味では、中国の歴史書物に多く載っています。「雨垂(あまだ)れ石を穿(うが)つ」は、石の上に雨どいから落ちるわずかなしずくでも長い年月では石に穴をあけるほどの強い力になるといい、継続の力強さを示します。

「千里の道も一歩から」という言葉があります。その昔、中国では400mを一里(いちり)と計算していましたから400kmとなります。今は1里は4kmなので4,000kmという長さになり、北海道から沖縄よりも遠い距離になりますが、この長さは物事を比喻(ひゆ)した数字です。

それほど想像つかない距離であっても最初の一歩からスタートして休まず続けることの大事さを表しています。「石の上にも3年いれば温まる」という例え話は江戸時代から使われており、冷たい石でもやがて温かくなると今でも使われます。これらは継続することで得られる心の有りようや自信や生き方などを示唆しています。

ところで、そろばん教室に入る時から帰るまでの時間を見ているとその使い方は色々違います。随時制なのでタイムを計っている途中に席につくと何もせずボンヤリしているので、次の10分間を計るまでにまだ3分あるから見取暗算をしたり、まちがい直しをするなどいろいろ出きるでしょう。

タイムを計る時だけ計算すればいいから途中は何もしないというのは時間がもったいない、しばらくの間でも大事にしてくださいと話します。

着席すると「先生、何をするんですか」と手持ちぶさたな人がいます。そこで、自分で考えてください。今度、2級の試験を受けるでしょう。苦手な問題を少しでも多く練習して受かるように頑張ってください。

自分で目標を立てれば、何をすればよいか分かるでしょう。少しの時間でも大事にして、何をするのがよいか考えるクセをつけてくださいなど、あれこれ話せば直ぐ行動する人がいます。10分間という決まった時間でしか計算できない、行動できないというのは困ります。

競技大会で10分ほどの休憩時間になると、中学生や高校生の一部の人は学校の試験勉強を始めます。参考書を読む人や計算式を書き込むなどわずかな時間を大切にします。

塾での練習が終わると教室の端の机で宿題をする人もいます。家ではテレビやスマホなどに気持ちがいくので、そのような事とは無縁の塾なら効率よく集中して学習できます。

電車内で参考書に視線を向ける姿を見ると、高校生のテスト期間だと思い、心の中で頑張れよとエールを送ると共に、日々の学習をしっかりやって欲しいと願っています。

わずかな時間を大切にしましょう。毎日5分間だけ集中して頑張ると1年間では1825分で30時間余りにもなります。

1日1回5分だけでは何もできない、変わらない、だからムダなので何もしない、という人は時間が多くあっても具体的に動きません。自分を大事にする者は時間を大切にします。

梅雨晴れや ところどころに

アリ 蟻の道

季節 梅雨晴れ

まさおかしき 正岡子規

梅雨の晴れ間だ。ところどころに蟻が行列を作っている